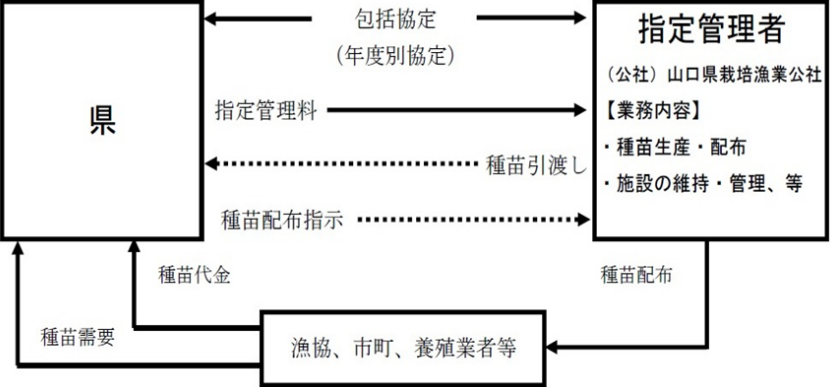




【4-8】

湾・灘の区分	響灘、周防灘、伊予灘、安芸灘
取組の名称	水産動植物の増殖の推進
事業期間及び事業費	<p>①事業名：水産動植物種苗生産業務委託事業(種苗生産・供給) 事業期間：平成28年度～令和2年度 事業費：318,036千円(令和元年度・県全体予算)</p> <p>②事業名：漁業生産増大推進事業(抱卵ガザミ放流支援) 事業期間：平成28年度～令和4年度 事業費：1,000千円(令和元年度)</p> <p>③事業名：漁業生産増大推進事業(トラフグ・ヒラメ種苗放流支援) 事業期間：平成28年度～令和4年度 事業費：5,252千円(令和元年度・県全体予算)</p> <p>④事業名：調査研究事業(有害生物被害防止総合対策事業) 事業期間：平成18年度～ 事業費：500千円</p>
事業体制	<p>①種苗生産・供給 山口県、(公社)山口県栽培漁業公社、漁協、市町等</p>  <pre> graph TD Prefecture[県] Manager["指定管理者 (公社)山口県栽培漁業公社 【業務内容】 ・種苗生産・配布 ・施設の維持・管理、等"] Fishermen["漁協、市町、養殖業者等"] Prefecture -- "包括協定 (年度別協定)" --> Manager Prefecture -- "指定管理料" --> Manager Manager -- "種苗引渡し" --> Prefecture Prefecture -- "種苗配布指示" --> Manager Fishermen -- "種苗需要" --> Prefecture Fishermen -- "種苗代金" --> Prefecture Manager -- "種苗配布" --> Fishermen </pre> <p>②抱卵ガザミ放流支援 【抱卵ガザミにマークをして再放流】宇部・小野田・山陽地域栽培漁業推進協議会 【再放流に係る経費を支援】山口県</p> <p>③トラフグ・ヒラメの種苗放流支援 【種苗放流を実施】(公社)山口県栽培漁業公社 【放流効果調査(市場調査等)を実施】山口県水産研究センター</p> <p>④ナルトビエイ生態調査 【駆除を実施】山口県漁協(宇部統括支店) 【生態調査を実施】水産研究センター</p>
事業の背景・目的	<p>①水産動植物の種苗生産、栽培漁業に関する指導、山口県栽培漁業センターの管理業務を指定管理者に委託することで、水産資源の増大を図り、水産関連産業の振興に資する。</p> <p>②③生産の現場となる地先・沿岸・沖合における生産力の回復・維持に資する取組の実証・支援を行うことにより、漁業生産力の強化・漁業所得の向上を図る。</p>
事業場所の詳細	山口県内

事業内容	<p>①種苗生産業務を委託 ②抱卵ガザミの再放流に係る買取経費を補助 ③トラフグ・ヒラメの種苗放流経費を補助 ④アサリ等を捕食するナルトビエイの生態調査を行う。(駆除も含む)</p>
モニタリング方法(効果・影響の確認方法)	<p>②抱卵ガザミ放流支援 [調査項目]水産物生産量 等 [調査時期] 5～7月に予算内で買い取り放流 [調査場所]宇部市、山陽小野田市(宇部・小野田・山陽地域栽培漁業推進協議会) [モニタリング方法]抱卵ガザミのマーク、再放流 農林水産統計年報による水揚量の把握</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="496 555 922 860">  <p>抱卵ガザミのマーク</p> </div> <div data-bbox="951 555 1377 860">  <p>再放流</p> </div> </div> <p>③トラフグ・ヒラメの種苗放流支援 [調査項目]水産物生産量 等 [調査時期] ・ヒラメ:4月の放流時 ・トラフグ:7月の放流時 [調査場所] ・ヒラメ:長門市(山口県外海栽培漁業センター・水産研究センター外海研究部) ・トラフグ:山口市(山口県内海栽培漁業センター・水産研究センター内海研究部) [モニタリング方法] 鰭カット、パンチング、耳石染色による放流魚追跡調査(市場調査)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="496 1294 922 1599">  <p>トラフグ鰭カット作業</p> </div> <div data-bbox="951 1294 1377 1599">  <p>ヒラメパンチング作業</p> </div> </div>

<p>(続き)モニタリング方法(効果・影響の確認方法)</p>	<p>④ナルトビエイ生態調査 [調査項目]水産物生産量 等 [調査時期・頻度]5～6月・2～3回 [調査場所]宇部市(山口県漁協宇部統括支店・水産研究センター内海研究部) [モニタリング方法] 駆除個体の生物調査(雌雄比、大きさ等)、タグ付け放流による回遊調査</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>捕獲されたナルトビエイ 駆除個体の生物調査</p>
<p>取組による効果・影響及びその判断基準等</p>	<p>①～④の結果 ・キジハタ生産量: H29(基準)20t → H30(実績)19t ・アワビ生産量: H29(基準)35t → H30(実績)35t ④ナルトビエイ生態調査の結果 ・毎年の駆除事業により、個体が小型化</p>
<p>モニタリング結果に対する見解・課題</p>	
<p>モニタリング結果の活用方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予算措置に活用 ・種苗ニーズの把握
<p>関係機関等における連携・情報共有の方法</p>	<p>県庁内部局との連携はないが、関係機関等において必要に応じて情報提供を行っている</p>
<p>現状での課題</p>	<p>①種苗生産・供給 種苗生産施設の老朽化、新たな感染症に対応した防疫体制の強化 ②抱卵ガザミ放流支援 ガザミについては、種苗放流も行っており、資源添加効果が種苗放流によるものか、抱卵ガザミ再放流によるものか、不明 ③トラフグ・ヒラメの種苗放流支援 トラフグ・ヒラメは広域回遊魚種であり、関係府県連携による調査体制の確立が必要</p>
<p>今後の予定等</p>	<p>種苗放流、産卵親魚の再放流、外敵生物駆除を継続実施</p>
<p>取組事例についての発表資料等</p>	<p>瀬戸内海環境保全小委員会(第15回)資料</p>
<p>情報提供元</p>	<p>山口県</p>